

## 財団法人 いばらき文化振興財団

[法人の概要]

平成18年7月1日現在

代表者名	橋本 昌 (理事長)	県所管部課	生活環境部 生活文化課	
所在地	水戸市千波町後川745	電話番号	029-305-0161	
ホームページURL	<a href="http://www.icf4717.or.jp">http://www.icf4717.or.jp</a>	E-mailアドレス	<a href="mailto:icf-ps3@icf4717.or.jp">icf-ps3@icf4717.or.jp</a>	
資本金(基本財産)	30,000 千円	設立年月日	平成4年7月17日	
主な出資者	出資順位	出資者名	出資額	出資比率
	1	茨城県	30,000 千円	100.0 %
	2		千円	%
	3		千円	%
	4		千円	%
	5		千円	%
その他	団体		千円	%
設立的	<p>各種の文化振興事業を行うことにより個性豊かな県民文化の振興を図り、もって国際性豊かな文化の県づくりに寄与することを目的として平成4年に設立された。</p> <p>平成11年からは、茨城県文化福祉事業団の文化部門を統合し、芸術文化に接する機会の提供、県民文化センターの管理運営及びアクアワールド茨城県大洗水族館(以下「大洗水族館」)の運営を行っている。</p>			

[事業の概要]

事業名	平成18年度事業費	内 容
事業1 文化振興事業	410,214 千円	個性豊かな県民文化の振興を図るため、芸術・文化活動への助成及び芸術・文化に接する機会の提供を行うため幅広いジャンルの公演事業を実施する。
事業2 県民文化センター事業	475,299 千円	県の芸術文化振興の拠点施設である県民文化センターの運営、施設の維持管理及び使用料徴収事務を行うとともに、食事等の提供、駐車場の管理を行い、利用者への利便とサービスを図る。
事業3 大洗水族館事業	1,700,438 千円	「茨城の海と自然・世界の海と地球環境」を基本テーマに、観光レクリエーション施設、地域の文化と経済に貢献する施設、海を通じた環境教育現場としての生涯学習施設、自然保護と種の保存に関する実践・研究施設として、「展示」、「普及」、「研究」の3つの機能を相互に連動させた魅力ある海の総合ミュージアム施設として運営する。

[組織]

7月1日現在の人数	年度	平成16年			平成17年			平成18年						
		県派遣	県OB		県派遣	県OB		県派遣	県OB					
役員	常勤理事	2	0	2	2	0	2	2	0	2				
	非常勤理事	13	0	1	13	0	1	13	0	1				
	常勤監事	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	非常勤監事	2	0	1	2	0	1	2	0	1				
	計	17	0	4	17	0	4	17	0	4				
職員	管理職	15	3	0	15	1	0	15	1	0				
	一般職	68	2	0	68	2	0	63	2	0				
	臨時職員	68	0	0	75	0	0	79	0	0				
	嘱託職員	3	0	1	3	0	1	3	0	1				
	計	154	5	1	161	3	1	160	3	1				
当期常勤職員の年齢構成	20代以下	15	30代	18	40代	20	50代以上	25	合計	78	平均年齢	41歳11月	平均勤続年数	19年 1月

[収支の状況]

財団法人 いばらき文化振興財団

(単位:千円)

区 分		平成15年度	平成16年度	平成17年度
収 支 の 状 況	収入合計	2,871,667	2,727,141	2,613,068
	事業収入	2,642,975	2,478,832	2,375,970
	事業外収入	228,692	248,309	237,098
	支出合計	2,730,097	2,491,949	2,538,341
	事業支出	809,476	768,730	757,480
	事業外支出	1,920,621	1,723,219	1,780,861
	うち管理費	1,736,580	1,705,266	1,757,477
	うち人件費	723,982	717,620	691,169
	当期収支差額	141,570	235,192	74,727
	正味財産増加額	733,099	588,382	590,787
	正味財産減少額	568,396	567,909	568,689
	当期正味財産増減額	306,273	255,665	96,825
	前期繰越正味財産	1,485,368	1,791,641	2,047,306
期末正味財産	1,791,641	2,047,306	2,144,131	
財 産 の 状 況	資産	2,513,371	2,842,096	2,884,911
	流動資産	673,776	992,032	1,025,343
	固定資産	1,839,595	1,850,064	1,859,568
	負債	721,729	794,790	740,780
	流動負債	228,254	300,044	243,790
	うち短期借入金	0	0	0
	固定負債	493,475	494,746	496,990
	うち長期借入金	0	0	0
	正味財産	1,791,642	2,047,306	2,144,131

[財的関与の状況]

(単位:千円)

区 分		平成15年度	平成16年度	平成17年度
財 的 関 与 状 況	補助金	101,262	101,595	103,139
	委託金	403,392	394,586	384,269
	貸付金			
	計	504,654	496,181	487,408
	財政的関与の割合(%)	18%	18%	19%
	損失補償・債務保証			

[平成17年度の補助金等の目的・内容等]

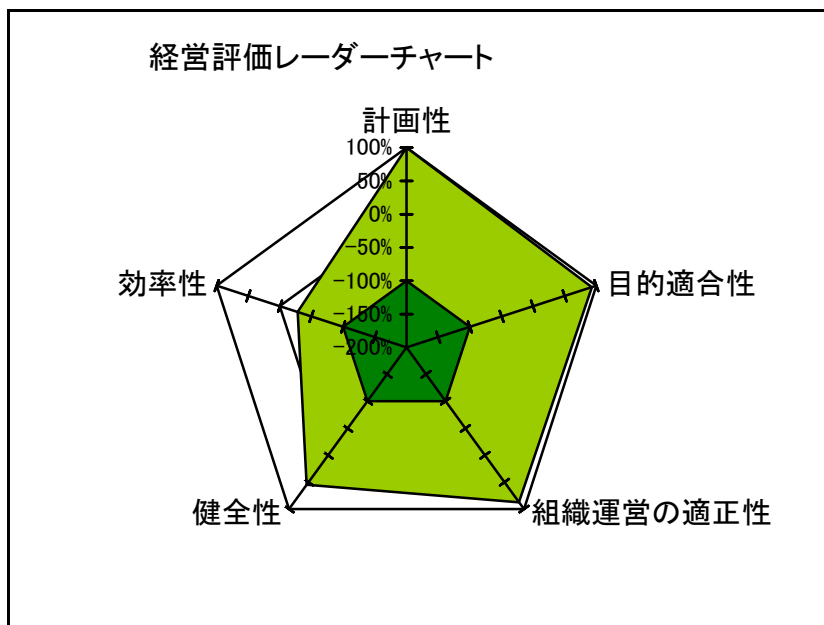
支 出 項 目	目 的 ・ 内 容 ・ 効 果
補助金	いばらき文化振興財団事務局では、理事会・評議員会の開催をはじめ、財団の事業計画及び収支予算の策定や事業所(県民文化センター、大洗水族館)への進行管理及び事業推進の指導にあたるほか、芸術文化活動への助成及び質の高い舞台公演の開催など県民サービスに努めている。
委託金	県民文化センターの運営及び施設の維持管理、使用料徴収事務を行い県民サービスに努めた。 また、大洗水族館では茨城県自然博物館水系展示水槽管理業務を受託し、「サイエンスデー・海の日」に館内レクチャーを行ったほか、「磯の生物タッチングコーナー」等を実施し好評を博した。
貸付金	

[評点集計]

評価の視点	評価項目数	評点	満点	得点率
計画性	4	8	8	100.0%
目的適合性	5	13	14	92.9%
組織運営の適正性	4	7	8	87.5%
健全性	11	22	40	55.0%
効率性	10	-10	36	-27.8%
合計	34	40	106	37.7%

公益法人会計用

財団法人 いばらき文化振興財団
<b>警戒指標</b>



《評価の視点》

計画性	経営目的、経営方針が各種計画に反映され、計画・実行・見直しが行われているか
目的適合性	法人が行っている事業と当初の設立目的が適合しているか
組織運営の適正性	組織、人事、財務等の内部管理体制が適切に整備・運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切か
健全性	法人の財務体質が健全であるか、また、各事業の採算性がとれているか
効率性	組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているか

各評価項目については、「出資法人等経営評価指標及び評価基準等」を参照

[法人の自己評価(経営概況, 経営上の課題・対策等)]

計画性	目的適合性	組織運営の適正性	健全性	効率性
<p>中期経営計画(平成14年度から平成18年度)を策定し、事業別に目標を掲げ運営にあたり、概ね計画どおりに推移している。</p> <p>なお、第2期中期経営計画(平成19年度～23年度)の計画を年度内に策定する事としている。</p>	<p>個性豊かな県民文化の振興を図り国際性豊かな文化の県づくりに寄与するため文化振興事業、県民文化センター、大洗水族館の運営等を行っている。</p> <p>施設及び事業の入場者による事業効果・目標達成度の状況から目的に適合している。</p>	<p>職員の意欲を喚起する方策として、職員の意見・提案を取り入れ、効率的な施設運営の検討材料とするなど、職員が経営へ参画できる体制をとっているほか、事務局・事業所間の連絡・調整を密にし、効率的な施設運営に努めている。</p>	<p>3期連続黒字であるが、補助金収入の依存度及び受託事業の再委託度がマイナスとなっている。</p> <p>補助金収入依存度については、補助対象職員の構成が人事異動により変わったため、結果的に人件費が増加したためである。</p> <p>受託事業の再委託度については、県委託金を節減するため、人員の削減に取り組み、積極的に外部委託を推進した結果である。</p>	<p>「人件費比率」、「職員1人当たりの事業収入」の評点がマイナスとなっているが、これは、大洗水族館が開館4年目となり、オープン効果が薄れ、入館者が減ったことにより、事業収入が減少したためである。</p> <p>しかし、17年度は、広報宣伝の拡充を図るとともにリピーターの増加に努めたことにより、対前年度よりも入館者数が増加しており、入館者の減少に歯止めをかけることと、3期連続で黒字を計上したところである。</p> <p>今後とも継続して安定した経営を維持するため、事業収入の確保に努めている。</p>
<p>今後の事業展開の方向</p>	<p>財団の自主運営事業の18年度予算規模は、文化振興事業(自主公演)が85,955千円、文化センター自主事業が151,318千円、水族館事業(委託事業を除く)が1,670,855千円、合計 1,908,128千円となっている。財団事業全体の予算規模の65%を大洗水族館事業が占めるため、水族館の運営が財団全体の経営を左右することから水族館の入館者をいかに確保していくかが課題となる。</p> <p>このため、マスメディアや観光情報誌等を活用した広報宣伝を行うとともに、引き続き県内はもとより、千葉県東葛地区及び首都圏等の人口密集地の潜在客の発掘や年間パスポートの販売等により、リピーターを確保するための対策を積極的に推進し、展示内容や普及事業、研究事業の充実を図り長期的、安定的な経営を目指すものとする。</p> <p>また、芸術文化に接する機会の提供という観点から実施する公演事業や利用者の利便を図るため実施する県民文化センター自主事業については、収支均衡を保つよう運営を行うほか、指定管理者として指定を受けた県民文化センターの管理運営については、利用者の要望を踏まえ一層のサービス向上に努める。</p>			

[法人を担当する課の意見]

計画性	目的適合性	組織運営の適正性	健全性	効率性
適切である。	適切である。	適切である。	県委託金削減の観点から積極的に外部委託を行い、事業運営の効率性の向上に取り組んでいる。	<p>効率性が低下した要因は、財団事業費の約7割を占める大洗水族館において、開館4年目となり、オープン効果が薄れ、入館者が減ったことにより、事業収入が減少したためである。</p> <p>しかし、財団の運営努力により、対前年度よりも入館者数が増加しており、入館者の減少に歯止めをかけており、適切な対応がとられている。また計画目標入館者を確保し、3期連続黒字となっていることから、管理運営上は問題はないと考える。</p>
法人担当課の意見	<p>①経営評価結果に対する取り組み状況            大洗水族館の展示関係のリニューアル経費の負担区分については、誘客につながるものとして財団負担で対応することを基本に、建物本体の形状を変更するようリニューアル、建物本体の形状に変更を加えない展示替的なリニューアルなど、具体的な事例を想定しながら県と財団の負担割合を今年度中に取り決めるべく協議をすることとしている。</p> <p>また、施設や設備等を計画的に修繕するため、本年度、財団で「施設修繕計画(仮称)」を策定中であり、この調査結果を踏まえ、各年度ごとの修繕項目及び修繕費を明らかにしたうえで、修繕費に対する県と財団の負担割合を協議のうえ、改めて取り決めを行い、展示関係のリニューアル経費の負担とともに、今年度中に策定する財団の第2期中期経営計画(19年度～23年度)に反映させていく予定である。</p> <p>県民文化センターについては、鑑賞型の事業だけでなく、県民参加型事業や収益を県民に還元する還元型事業など、新しい事業に取り組みながら、オペラや歌舞伎など地方での公演開催が収支上難しい事業を盛り込み、かつ、経費を節減した事業計画が評価され、指定管理者に選定された。今後、事業計画を着実に実施していくよう指導していく</p> <p>②平成18年度経営評価について            計画性、目的適合性、組織運営の適正性については自己評価どおり適切である。健全性についても、3期連続黒字であり問題ないと考えている。効率性については、大洗水族館のオープン効果が薄れ入館者が減少傾向にあったことから結果として指標が低くなっているが、H17年度は対前年度を上回る入館者を確保し、入館者の減少に歯止めをかけており、引き続き、年間100万人の入館者を確保すべく工夫を凝らしている運営姿勢は評価できる。今後とも文化振興部門を含め財団全体として安定して黒字を確保できるよう指導していく。</p> <p>③行革大綱の取り組み            平成17年度から県派遣職員2名を削減するなど人員の削減に取り組むとともに、毎年度、県からの委託金の削減を図るなど経費の削減に取り組んできている。引き続き、県民サービスの向上を図りながら経費削減に取り組むよう指導していく。</p>			

[総合評価]

<p>取組みを強化すべき視点</p>	<p>計画性      目的適合性      組織運営の適正性      健全性      効率性</p>
<p>総合的所見等</p>	<p>概ね良好      改善の余地がある      緊急の改善措置が必要</p> <p>平成18年4月から、県民文化センターの指定管理者となったことから、県民参加型の新たな事業への取組みや、利用者サービスの向上、経費の節減など、更なる運営努力が期待される。また、グリル・売店事業については、魅力アップに向けた取組みが必要である。大洗水族館については、一定の評価は受けているものの、今後はオープン効果が薄れ、入場者の確保が課題となってくることから、リピーター確保対策と新規顧客拡大を重点とした誘客対策を講じる必要がある。また、施設の修繕費及び展示のリニューアル経費等に関する県と法人の役割分担及び経費負担の割合については、施設修繕計画が策定され次第、今年度中に県との間で取り決めるべきである。</p>

<p>総合的所見等に係る対応</p>	<p>県民文化センターについては、グリル・売店事業を含め、利用者ニーズの把握に努めながら、引き続き県民サービスの向上と経費節減に取り組むよう指導する。大洗水族館については、今年度も昨年度に続き前年度を上回る入館者を確保できる見込みであり、引き続き誘客対策や展示内容の充実に取り組むよう指導する。また、施設の修繕費及び展示のリニューアル経費等については、可能な限り当法人で運営収入を積立て、当該経費をまかなうよう1月に県と当法人の間で取り決めを行ったところである。</p>
--------------------	---

< 財団法人 いばらき文化振興財団 から県民のみなさまへ >

<p>いばらき文化振興財団は、各種の文化振興事業を行うことにより、個性豊かな県民文化の振興を図り、国際性豊かな文化の県づくりに寄与することを目的に平成4年に設立されました。</p> <p>芸術文化に接する機会の提供として多種多様な舞台芸術公演を行うほか、文化活動団体等の支援、県民の文化活動の拠点施設としての「県民文化センター」の管理運営、茨城の海と自然・世界の海と地球環境を基本テーマとした「アクアワールド・大洗」の運営を行い、県民から親しまれる施設を目指して運営にあたっております。</p> <p>県民文化センターにつきましては、平成18年度から指定管理者の指定を受け、歌舞伎・クラシック音楽・オペラ公演や落語塾、ミュージカルのワークショップなど参加型事業を行うほか、新たに24時間体制でのチケット予約申込み(主催公演)、貸館の予約受付及びチケット販売窓口の延長営業を行うなど、サービス向上を目指して運営にあたっております。</p> <p>また、アクアワールド・大洗につきましては、「見て、触れて、遊びながら楽しく学べる」展示の充実を図り、お客様に楽しんでいただける環境づくりに努めた結果、平成14年3月の開館以来、平成19年1月までの4年10ヶ月で600万人の入場者を迎えることができました。</p> <p>今後とも、お客様に楽しんでいただける施設の運営と事業展開に努めてまいりますので、職員一同皆様のお越しを心からお待ちしております。</p> <p style="text-align: right;">平成19年2月    理事長    橋本 昌</p>
--